

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより

14号



「日曜学校資料」

明治期の日曜学校の資料として保管されている絵であるが、受入れ年、制作年、作者等一切わかっていない。'心'の文字を中心に、天人界、修羅道、我鬼道、地獄道、畜生道、人間界の6つの世界に描き分けられている。仏教の六道図に相当するものと思われるが、どのように使われたのかなど今後の調査を待つことになる。絵は繊細に生き生きと描かれており、力量がしのばれる。
(大きさ タテ109×ヨコ97cm)



Dr. Arthur Daniel Berry に関する資料 氣賀健生 — 2

青山学院 Founder と言われていた

ガウチャー博士と新収集資料 シュー土戸ポール — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内 — 8

Dr. Arthur Daniel Berryに関する資料

青山学院大学名誉教授 氣賀健生

「私達日本に来ている宣教師は日本を愛しています。私達は日本と日本の人々に対して尊敬と愛情をもっています。何故そんなに、とあなたが聞かれるなら、答は簡単。私達は日本と日本人を直接親しく直に接しているからです。実際ここ日本に住んでみるとわかりますが、日本人は乱暴でも野蛮でもないし、血に飢えてもいません。彼等は高度に文明的で文化的、礼儀正しく平和を愛する友好的な人々です。」これはベリー博士 (Dr. A. D. Berry) から海外の友人達にあてた手紙の一節である。

これほど左様に日本を愛し、日本人に好意と愛着をもっていた宣教師ベリーとは、如何なる人物で、その日本に宣教した39年間 (1902～1941) にどのような働きをしたのであろうか。今回はアーサー・ダニエル・ベリー Arthur Daniel Berry 宣教師に関する資料を紹介しよう。

A.D.Berryは1872(明治5)年、アメリカのニューヨーク州メキシコという小さな村に、イギリス移民の子として生まれた。御父君はその地の新聞社に勤めていたと伝えられている。1892年故郷のハイスクールを卒え、ニューヨーク州のシラキュース大学に入学し、1895年優秀な成績を残して卒業した。その年、ニュージャージー州マディソンのメソジスト系のドゥルー神学校に入学し、フェローの名誉を以て1898年卒業、更に研究科に一年留まり、特に組織神学の泰斗カーティス教授の指導を受けた。同教授は彼の抜群の才能を見込んでその後任に推薦する意向であり、彼をドゥルーに引き留めようとつとめたが、彼はその厚意に感謝しつつも、ドゥルー神学校には留まらず、日本伝道の途を選んだ。何ゆえに彼が日本伝道にその一生を捧げたのか、その動機について、曾て彼自身、明言したことはなかったが、推察するに次のようなことが考えられる。

そもそもメソジスト教会の日本宣教は、1873年、R.S.マクレイ、ジュリアス・ソーパー、J.C.デヴィソン、M.C.ハリス、I.H.コレルたちの横浜到着に始まったと云えよう。その後、デヴィソンの息子C.S.デヴィソンも日本伝道の準備のためにドゥルー神学校で学んでいたため、その親友であった

A.D.ベリーに、同じく日本伝道を勧め、共に協力することを約束し、日本伝道に献身するに至ったと思われる。

また当資料センターには、ニューヨーク宣教局のレオナルド博士宛の、大要次のようなベリーの手紙が残っている。「Dr.ソーパーから、私が日本へ宣教師として来るように、と云って来ている。そしてそれはボードの判断にかかっているとのこと。然し、私は家庭の事情で今スグは無理だけれども、来年以後は行けるつもりだ。」－これが1900年8月22日付、即ち彼の来日の2年前の手紙であるから日本に既に定住していたソーパー宣教師からも勧誘があったと思われる。



Arthur D. Berry

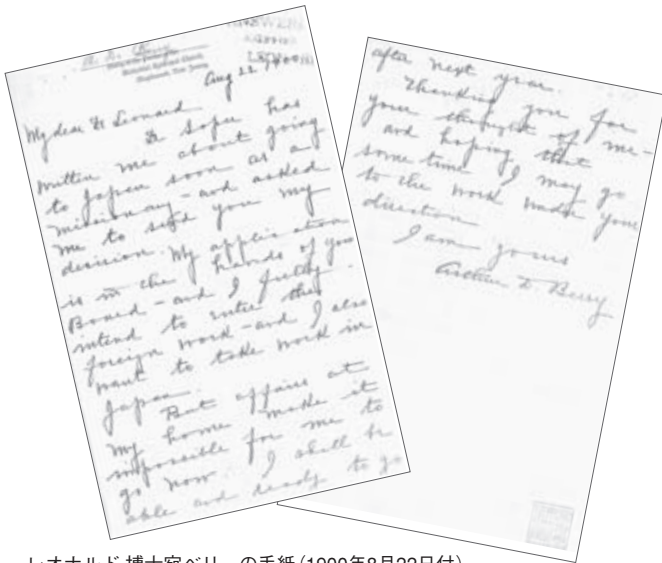
門司に次いで、ベリーは福岡美以教会の宣教師に転任したが、当時の牧師は古坂啓之助(故青山学院長古坂崑城の父)であった。ベリーはこのサムライ型の牧師から日本のキリスト者の模範を見ていたという。

門司に次いで、ベリーは福岡美以教会の宣教師に転任したが、当時の牧師は古坂啓之助(故青山学院長古坂崑城の父)であった。ベリーはこのサムライ型の牧師から日本のキリスト者の模範を見ていたという。

1905(明治38)年、ベリーは神学部教授として青山学院に赴任する。これからベリー教授の神学部長としての25年間と、ドゥルー神学校カーティス教授直伝の組織神学、礼拝学、説教学の「ベリー神学校・青山学院版」35年間が始まる。

当資料センターにはベリーの自筆の資料が数々残されているが、その中に「組織神学講義案」なるものがあり、タイプでビッシリと2冊、それぞれ50～60ページ程の原稿である。恐らくこれらに基づいておこなわれていたであろう高潔な組織神学の講義の情熱が、ひしひしと伝わって来るようである。当時の或る神学生は、「先生は、背広の着具合も、あの歩きぶりも、階段を上って来られる歩調も、みな組織神学的であった」と書いている。

彼が青山学院という世界の中で、どのような存在であったかを物語る周囲の評は数々あるが、その幾つかを拾ってみれば次のようなことになる。



レオナルド博士宛ベリーの手紙(1900年8月22日付)

「ベリー先生の場合、先生御自身が神学であったと思います。」(宮城春江)

「不精な不勉強な学生であった私は、始終ベリー先生に叱られた。然し不思議に反撥を感じない。むしろ一種の爽快さを覚えたものである。それは先生の私心のなさと清潔さから来る反応であろうか」(郷司浩平)

「こんな人が、いま一番必要なのではないか。学生にとっても、学校にとっても、日本にとっても」(古田十郎)

そして、公の事柄については非常に厳格であり、自ら律すること厳であるが、学生に対して、個人的な問題などでは、親のような甘さを以て世話をするベリーを見て、比屋根安定教授は「ベリー先生は、角砂糖のようだ。四角で純潔であるが中身は甘い」と話していた。

また、ベリー教授のよき議論相手と言われた渡辺善太教授は「ベリー先生は非常なシステムティック・セオロジアンであるし、時間があれば立派な著述をし得る人であったと思う…それにはあまりに忙しかったが、先生自身の気持としては、著述などするよりは学生を指導する方が、自分の使命と思ったであろう。やはり先生の教え児が先生の著書である。」と語っていた。

ベリーの日本伝道の最初の任地であった門司時代から、最後に日本を去った1941(昭和16)年まで、忠実に料理人として仕えていた長谷川小三郎・千歳夫妻が、或る時、もっと栄養をとることをすすめたが、“独身のベリー先生”は、私には沢山のこどもがあるから、と辞退したといわれる、と、船水衛司氏は証言している。実際、生涯独身であったベリーにとっては、神学生が、かけがえのない子どもたちだったのであろう。

独身と云えば、資料センターに保管されている

彼の家計簿を見て、筆者は驚嘆した。秘書も置かず、独身の彼が、このような膨大な家計簿を、毎日つけていたことは、殆ど想像を絶する位である。そこには“House Account 1911-13”としてドル建てで細かい日常の費用がコマゴマとページからページへと書かれている。

資料センターにはこの他にも、凡そありとあらゆるベリーの記録が残されている。シラキュースやドゥルー神学校時代のことを微細にわたって書き記した文章もある。また「関東大震災報告書大正12年9月6日、東京青山学院にて」(Account of the Earthquake, Sept.6,1923,A Missionary Letter)は、関東大震災直前にアメリカから日本に帰った時から、軽井沢往復、東京での様子、青山学院の状況、それに例の「朝鮮人迫害問題」など、詳細にわたって記され報告されている。

関東大震災は青山学院にも大きな打撃を与えた。その復興に奮闘したのが、我がベリー宣教師であった。彼は、1925(大正14)年から1927(昭和2)年にかけて何度もアメリカを往復し、災害復興資金募集に奔走した。こうして集めた資金をもとに校舎の復興を試みたが青山学院全学部校舎の同時完成は資金上無理であることがわかったとき、彼は神学部校舎建設を延期して、高・中学部の建設を優先させた。このためにベリー教授の組織神学は、なお数年バラック同様の仮校舎で行われたのである。そして1931(昭和6)年、神学部校舎はキャンパスの中央に建てられた。現在の学校法人青山学院本部の建物がそれであるが、正面に“A.D.BERRY HALL”そして「登録有形文化財・第13-0230号 この建造物は貴重な国民的財産です 文化庁」ときざまれている。

ベリー宣教師—ベリー先生を知る人々が、一様に語ったように、彼は日本を愛し、学生を愛し、そして青山学院を愛し、何故そんなに愛するのだろうかと思議がられるくらいであった。しかし、日本のいわゆる非常時とよばれたころ、即ち1930年代の後半頃から「彼の双眼は憂色を帯びて来た」と船水衛司氏は見ていた。そして1941(昭和16)年初頭、日米関係を憂慮しながら、アメリカに帰り、同年2月11日、心身ともに疲れ果て、故郷で召天した。日米開戦を見なかったのが、彼にとってせめてもの幸せであったと思われる。

なお、ここには紹介し得なかったが、当資料センターにはベリー氏の、“東洋に対する基督教の使命”その他の論文が載った「神学評論」その他の雑誌が山積していることを最後につけ加えておこう。

青山学院Founderと言われていたガウチャー博士と 新収集資料

学院宗教部長 シュー土戸ポール

青山学院のFounder（創立者）とも言われていたガウチャー博士に関する歴史的資料は、青山学院にもありますが、海外の方が多いです。ガウチャーはアメリカのメソジスト教会の宣教運動と深く関わり、青山学院以外にも多大な影響を与える人でした。後から本人の名前を用いるボルティモア市Goucher College以外にも、ガウチャーは韓国の培材大学校（ペジェ大学）、中国福州市のキリスト教大学（福建協和大学）や青山学院の創立に大きく貢献しました。しかし、ガウチャー本人に関する歴史的研究がそれほど進んでいないし、関係資料がまだ整えられたとは言えません。数年前から、私はそのガウチャーに関心を持ち、昨年新しい歴史的資料を求めるためにアメリカに出かけました。

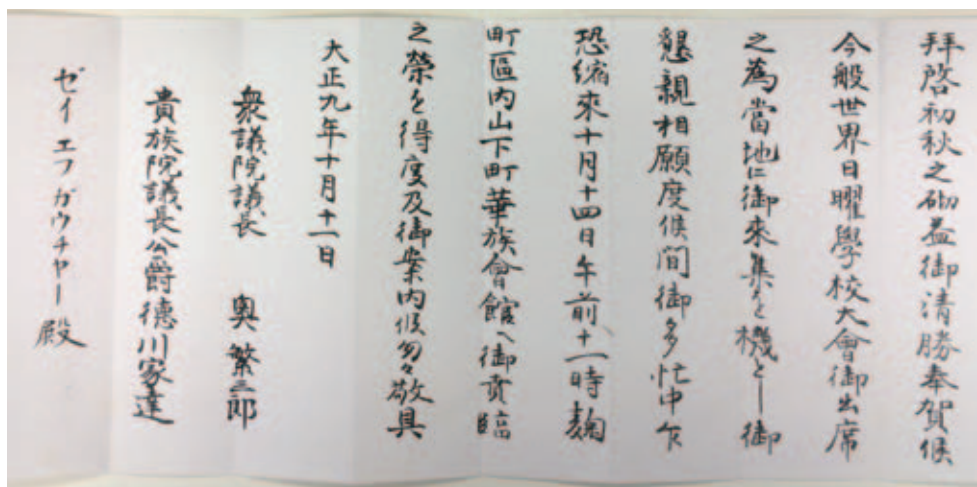
ガウチャーはメソジスト監督教会の牧師として、長期にわたりボルティモア市のLovely Lane Church（ラブリーレイン教会）の主任牧師でした。1784年にアメリカのメソジスト教会の創立会議がこの教会で開催されたので、1882年にガウチャーが牧会していた時に、米国のメソジスト教会100周年を目指して、礼拝堂をカセドラルのように建て替えました。今日、その教会の地下一階にはメソジストの博物館と合同メソジスト教会ボルティモア・ワシントン年会のアーカイブが入っています。

このアーカイブでの資料はそれほど多くはありませんでしたが、他にはないものがありました。特に、ガウ



ガウチャーが建てたLovely Lane Church and Museum
合同メソジスト教会ボルティモア・ワシントン年会のアーカイブ

チャーの日記があります。手書きの略語で書いてあって、旅行で行った先と会った人の名前しか書いていないようなメモ書きですが、貴重な資料です。ガウチャーが来日した時の日記もその中に見つけました。大正時代、来日したときの記事や記録も複数ありました。例えば、大正





ガウチャー大学で展示されているリリーフ

9年（1920年）、来日した際、衆議院議長奥繁三郎からのお手紙と招待状もありました。

ガウチャー大学はラブリーレイン教会から始まりましたが、今日はボルティモア市の郊外にあります。ガウチャー大学の資料センター（The Special Collections & Archives）には少ししか資料がありませんが、その中には青山学院の歴史的資料も含まれています。ガウチャー大学には青山学院の歴史と深い関わりのあるリリーフが展示されています。青山学院とガウチャー大学両方には同じガウチャーのリリーフが大正時代に作られました。ガウチャー大学の方には“Founder - President”と下を書いてありますが、青山学院の方は“Founder”とのみ書いてありました。青山学院の方が原型でしたが、残念ながら戦争中の金属類回収令によりなくなりました。

もう一つのアーカイブがガウチャーの資料を保管しています。それはニューヨーク市コロンビア大学のユニオン神学大学院のBurke Libraryです。ガウチャー個人が管理した資料や手紙などを娘のエリノアが当時のMission Research Library（宣教研究図書館）に寄付しました。

この中には大量の資料が含まれていますし、ガウチャーの幅広い国際的な働きを見ることもできます。合わせて22箱の資料の中にはアメリカ、日本、韓国、インド、中国などからの資料が数百ファイルにまとめられています。日本に関する資料は3箱に及びます。青山学院に関する資料も多くありますし、日本で合同キリスト教大学を設立する運動に関する資料も多くありました。

この資料集はThe John Franklin Goucher Papersと呼ばれていますので、ガウチャー本人が書いた資料を期待するでしょう。しかし、ガウチャーが保管した資料は主にガウチャー宛ての手紙であって、ガウチャー著作の資料はほとんどありません。青山学院の創立から1920年代まで学院宣教師からの手紙とレポートが多いです。中心的な人物であるジュリアス・ソーパーやロバート・マクレイ等からの手紙が多く含まれています。また、例えば、青山キャンパス購入時期に、津田仙と日本駐在アメリカ合衆国公使ジョン・ビンガムの役割などについての書類も発見しました。

約一週間の資料収集から、合わせて900枚のコピーやスキャンを持って帰って、資料センターに渡しました。これからのガウチャーと青山学院歴史研究の役に立つことが期待できます。



Burke Library, Union Theological Seminary, NY 中庭からの古い校舎

2015 年度後期利用状況

1. 月別利用者数 () 内は前年度の数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
展 示 見 学 者 数	158	204 (255)	35 (675)	70 (71)	53 (33)	164 (189)	684 (1223)
ボックスキャナ利用	0	3	0	1	0	0	4
3Dスキャナ利用	0	0	0	0	0	6	6
3Dプリンタ利用	0	11	5	0	0	0	16
資 料 関 覧 者 数	13 (20)	11 (21)	6 (15)	12 (22)	15 (21)	15 (24)	72 (123)
閲覧者の区分	本学学生	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (3)
	現教職員	8 (8)	3 (8)	2 (1)	6 (5)	3 (6)	26 (33)
	旧教職員	0 (8)	5 (11)	0 (8)	3 (11)	3 (8)	16 (59)
	校友	4 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (3)	10 (3)
	他大学教員	1 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	2 (1)	4 (3)
	牧師	0 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (2)
	一般	0 (2)	2 (2)	1 (3)	1 (4)	6 (6)	12 (20)
利用の目的	教会史編集	0 (2)	2 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (3)
	学校史編集	0 (3)	0 (0)	1 (3)	0 (4)	2 (0)	6 (14)
	著述・論文作成	3 (8)	5 (16)	2 (10)	6 (12)	5 (12)	26 (68)
	伝記資料調査	0 (1)	2 (1)	0 (0)	1 (2)	5 (2)	9 (8)
	記録類の調査・研究	1 (4)	1 (6)	1 (1)	2 (5)	1 (6)	7 (23)
	その他	9 (4)	2 (2)	2 (4)	3 (5)	3 (5)	22 (24)
	青山学院史関係 (AA)	8 (9)	3 (8)	2 (5)	7 (15)	11 (3)	42 (52)
資料の種類	メソジスト教会関係 (B)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	1 (7)	8 (13)
	英語・英文学関係 (IDF)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (2)
	明治期キリスト教関係 (G)	1 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	6 (3)
	一般分類図書	2 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (2)	2 (0)	5 (6)
	その他	2 (8)	1 (13)	0 (10)	1 (8)	2 (9)	6 (58)
	図書	23 (37)	40 (9)	11 (23)	37 (82)	44 (65)	206 (270)
	マイクロフィルム	2 (1)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	8 (10)
資料の形態 (閲覧点数)	写真(含ネガ)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (39)	7 (1)	36 (53)
	アルバム	13 (0)	4 (2)	0 (17)	0 (0)	0 (0)	17 (19)
	個人資料ファイル	0 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (0)	1 (0)	46 (14)
	ビデオ・DVD等	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (1)
	その他	0 (9)	2 (15)	0 (9)	5 (9)	0 (10)	7 (64)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数 () 内は前年度の数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件 数	11 (9)	11 (6)	14 (2)	18 (11)	14 (10)	10 (5)	78 (43)
質問者の区分	学生	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (2)
	現教職員	2 (7)	9 (4)	9 (0)	10 (4)	5 (5)	39 (22)
	旧教職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	1 (2)
	校友	4 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	8 (1)
	一般	5 (2)	2 (2)	3 (1)	6 (5)	8 (5)	29 (16)
質問内容	文献所蔵調査	3 (0)	0 (1)	2 (1)	1 (2)	2 (3)	11 (8)
	写真所蔵調査	3 (2)	0 (2)	6 (0)	5 (2)	1 (1)	17 (10)
	事 項 調 査	4 (4)	9 (1)	6 (0)	11 (7)	9 (3)	46 (18)
	そ の 他	1 (3)	1 (2)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	3 (8)

3. 日誌抄



10月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため (4回)
- ・大学名誉教授来室、150年史編集のため (3回)
- ・学内教員来室、年史編集ほか (5回)
- ・来客17名
- ・大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書の一般分類登録作業依頼
- ・第2回資料センター運営委員会開催
- ・150年史編集事務打合せ

11月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため (6回)
- ・大学名誉教授来室、150年史編集のため (1回)

- ・学内教員来室、年史編集ほか (3回)
- ・来客 4名
- ・150年史編集のためのインタビュー実施 (米国1件)
- ・TBS (Nスタ) 展示ホール撮影
- ・第2回『青山学院150年史』編集委員会
- ・三つのオルガンによるレクチャー・コンサート開催 (11月14日)
於：本部礼拝堂、間島記念館バルコニー 約230人来場
- ・シンポジウム「ヴォーリズを伝える～意義と課題」
於：展示ホール 約50人来場
- ・「壮麗と質実～心斎橋大丸と青山学院の建築原図」展開催 (11月30日～12月6日) 354人見学

12月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため (5回)
- ・学内教員来室、年史編集ほか (5回)
- ・150年史編集室事務打合せ
- ・150年史編集のためのインタビュー実施 (米国1件、国内2件)

- ・早稲田大学開催講演会「大学史のこれまでとこれから」に参加
- ・国内外へクリスマスカード送付
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』13号発行
- ・来客 5名

1月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため（6回）
- ・学内教員来室、年史編纂ほか（5回）
- ・大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書的一般分類登録作業依頼
- ・150年史編纂事務打合せ
- ・テレビ朝日映像(株)へ大講堂（弘道館）の写真提供
- ・個人研究者へ関根要八関係資料の写真提供
- ・松山百店会へ勝田銀次郎の写真提供
- ・来客 7名

2月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため（4回）

- ・学内教員来室、年史編纂ほか（6回）
- ・大学150年史編纂のためのインタビュー実施（国内2件）
- ・(株)新潟放送 杉本鉦子関連資料及びインタビュー風景撮影
- ・(株)文真堂へ本多庸一の写真提供
- ・(株)教文館へ本多庸一の写真提供
- ・来客 5名

3月

- ・展示検討小委員会開催
- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため（6回）
- ・学内教員来室、年史編纂ほか（5回）
- ・150年史編纂室事務打合せ
- ・青山学院大学体育会ボクシング部（OB）へ記念誌編纂のため各種写真資料提供
- ・(株)テレビ朝日へ津田仙の写真提供
- ・「押絵のひな人形と寄裂」の特別展開催。（3月22日～4月30日）
- ・来客 18名

2015年度後期受入れ

資料

(学内部署からの資料は除く)

寄贈

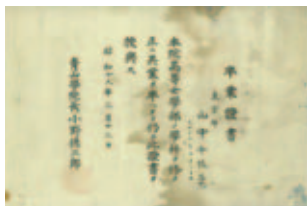
- 曲谷栄一(校友)様より、卒業証書 青山学院高等女学部 山中千枝子 昭和19年3月23日 (次頁写真①)、ほか2点
- 高木須江(4代院長高木壬太郎親族)様より、高木壬太郎 資料 多数
- 佐藤由美(校友・元青山学院大学非常勤講師)様より、『日本統治下台湾・朝鮮の学校教育と周辺文化の研究』東アジア教育文化史研究会編 2014年3月25日、ほか5点
- (株)テレビ東京様より、『KIRIN ART GALLERY 美の巨人たち 第769回渡辺仁 銀座「和光」 DVD 2015年10月3日放送
- 大橋弘(校友)様より、『THE THIRD MILLENIUM (1)』(青山学院大学神学科同窓同人誌) No.1 (1999)～No.65 (2015)
- 氣賀健生(校友・大学名誉教授)様より、ジャン・克蘭メル夫妻婚礼時の記念写真 1964年1月26日
- 庄司一幸様より、『須賀川福音教会石川講義所史および石川幼稚園史』庄司一幸著、2015年5月31日 ほか6点
- 伊藤信夫様より、『青山学院資料センター Portable Organ (横浜・西川製 #45160) 調律及びOrgan (Mason & Hamlin 137 #2624) 修復・復元記録』伊藤信夫著 ほか1点
- 青山学院大学体育会山岳部・緑ヶ丘山岳会 (OB会) 様より、青山学院大学山岳部90周年記念 祝賀会式次第及び参加者リスト 2015年11月14日、ほか5点
- 青山学院高等部同窓会様より、『青山学院高等部同窓会報』70号 2015年11月15日
- 吉岡勝見(校友)様より、『グリーンハーモニー OB NEWS』青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会 No.52 2015年10月
- 榊原明子(校友)様より、『あんばんとアメリカ ～アメリカで暮らせば日本がわかる』榊原明子著 2015年9月23日
- 阿部志郎(校友)様より、『THREE HUNDRED MANYO POEMS』岡田哲藏著 1935年9月25日、ほか2点
- 京都大学学術出版会様より、『現代天文学史 ―天体物理学の源流と開拓者たち』小暮智一著 2015年12月10日 初版
- 保坂芳男様より、「キリスト教系中等学校の英語教員に関する研究-青山学院の場合-」『専修人文論集』第97号抜刷 2015年11月
- 英米文学科同窓会様より、会報『Aoyama Sapience』第34号 2015年12月15日
- 短大同窓会様より、アルバム 青山学院女子短期大学女声合唱団S43年度贈 寄せ書き入り (1967年～1977年までの写真)
- 那須輝彦(文学部比較芸術学科教授)様より、『青山学院大学聖歌隊 珠玉の宗教曲集～青山学院大学の四季～』CD 青山学院大学聖歌隊 2014年
- 河本勇(校友)様より、第92回箱根駅伝 青山学院大学優勝 出演番組録画(Blu-ray Disc) ZIP!PON!every各番組
- 井筒明夫(校友)様より、『死線を越えて』賀川豊彦著 大正10年8月29日、ほか3点
- (株)ビーエス朝日様より、『黒柳徹子のコドモノクニ～夢を描いた芸術家たち～ #38』BS朝日2016年1月20日放送 DVD(校友・服部正の特集)
- 太田拓紀様より、『近代日本の私学と教員養成 -ノン・エリート中等教員の社会史-』太田拓紀著 2015年12月25日
- 加藤新一様より、東京英和学校卒業証書 (次頁写真②)、青山学院神学部女子部卒業証書 各1、祝賀状2点、記念写真 (National District Superintendents Conference)
- 落合建仁(校友)様より、「日本メソヂスト教会「宗教箇条」第16条の成立をめぐる近代天皇制と福音の相克」落合建仁著 (『神学』77号、東京神学大学神学会編、2015年12月26日の抜刷)、ほか1点
- 内田義雄様より、『鉦子 世界を魅了した「武士の娘」の生涯』内田義雄著 2016年1月18日 第6刷
- 八戸柏崎教会様より、『負われ担われてきた110年 八戸柏崎教会の歩み』八戸柏崎教会編集委員会編 2003年11月9日
- 小林京子(初等部元教諭)様より、『かみさま あのね』高村喜美子(校友・元初等部教員)著 1984年5月1日、ほか2点
- 松山百店会様より、『松山百点』vol.307 (株)えひめりびング社編、2016年3月1日
- 梅津順一(院長)様より、『その神の名は? ―キリスト教への招待』梅津順一著 2016年3月20日
- (株)教文館様より、『新島襄と明治のキリスト者たち ―横浜・築地・熊本・札幌バンドとの交流』本井康博著 2016年3月20日
- 外山信司(校友)様より、『佐倉市飯野町 熊谷家文書目録・

調査報告 藤方博之編 2016年3月20日 国立歴史民俗博物館

- 中井幸夫様より、『MINUTES of the Japan Annual Conference of the Methodist Protestant Church』session of 1912～1914 ほか 2点、『日本美普教会 第30回～第50回年会議事録』1921～1941(大正10年～昭和16年)ほか16点
- 他大学・学校 年史・紀要類

購入

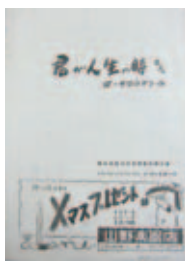
- 青山学院創立77周年記念 音楽会プログラム「Vocal Quartet」1951年
- 青山学院創立79周年記念 青山学院大学演劇研究部公演パンフレット「君が人生の時」5まく W.サロウヤン作 1953年(写真③)
- 『児童保護問題』生江孝之(校友・元理事長)著 岐阜県社会事業協会 1928年
- 『名士所説 時代の聲 其一・其二 静岡県立農学校校友会報臨時号』牛島英喜編 静岡県立農学校校友会 1912年
- 『農村教育の根本問題』東亜学藝協会編、山口英人編 四條書房 1931年
- 『シリーズ 福祉に生きる 68 平野 恒』亀谷美代子著 大空社 2015年
- 『農業雑誌』第18号～22、24、27～31、33～36号津田仙著 東京麻布学農社 1876年
- 『欧米視察細民と救済』生江孝之(校友・元理事長)著 博文館 1912年
- 『児童福祉とわが人生』(1月、5月発行 計2冊)平野恒子(校友)著 神流川新聞厚生文化事業団 1982年(写真④)
- 『少女倶楽部 第6号』宇田川鈞編 大日本雄辯會講談社 1937年
- 『東方の博士』上杉憲章訳 教文館1911年
- 『犯罪救済論』田中太郎著 教文館1896年
- 『青春の危機』渡邊房吉著 教文館1905年
- 『涙痕集』池亨吉著 警醒社書店 1898年
- 『戯曲 マリア・マグダレナ』吹田順助著 警醒社書店 1910年(写真⑤)
- 『日本全国基督教信徒同盟会 演説集』森本介石編 警醒社書店 1887年
- 『人道 人道の勝利』海老名弾正著 日高有隣堂 1904年
- 『十字架の救 道之葉叢書 第貳篇』本多愛雄(校友)著 教文館 1916年
- 『社会主義概評』島田三郎著 警醒社書店 1901年
- 『宇宙之心』元田作之進著 警醒社書店 1908年
- 『日本基督教婦人矯風会五十年史』守谷東著 日本基督教婦人矯風会 1936年
- 『婦人画報 臨時増刊 第2年第8号』(校友・小崎千代子の談話掲載あり)國木田哲夫著 近事書報社 1906年



写真①青山学院高等女学部卒業証書 昭和19年



写真②東京英和学校卒業証書 明治26年6月



写真③演劇研究部公演パンフレット



写真④児童福祉とわが人生



写真⑤マリアマグダレナ

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。

公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00(入館は16:30まで)
土曜日 ▼9:30～13:00(入館は12:30まで)

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。

閲覧時間(いずれも昼休み11:30～12:30)

月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00

*夏期間<8/3(水)～9/15(木)>の閲覧時間: ▼9:30～16:00

●休室日

日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末・年始・その他青山学院が定める休日、夏期間:

一斉休業期間<8/6(土)～8/12(金)>、8/17、8/24、8/31の水曜日及び8/13、8/20、8/27、9/3、9/10の土曜日

●お問い合わせ

TEL 03(3409)6742 FAX 03(3409)8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらをご覧ください。

<http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

資料センター運営委員

院長(職務上)	梅津 順一
常務理事1名(職務上)	楯 香津美
学院宗教部長(職務上)	シュエ士戸 ポール
大学図書館長(職務上)	近藤 泰弘
大学 教員1名	清水 信行
女子短期大学 教員1名	清水 康幸

高中部(高)	教員1名	佐藤 隆一
高中部(中)	教員1名	森田久美子
初等部	教員1名	窪田 靖
幼稚園	教員1名	矢部 尚子
総局長(職務上)		伊豆 一男
資料センター事務長(職務上)		傳農 和子

資料センタースタッフ人数

資料センター事務:

専任 3人
パートタイム 3人
(述べ週5日・2人)

『青山学院150年史』編集事務:

有期職員 1人
パートタイム 2人
(述べ週5日)

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 14号

2016年7月25日

青山学院資料センター編・発行



印刷:三美印刷株式会社
1,500部